平成30年度 基本事業評価シート（平成29年度実績評価）

政策 02 健やかに暮らせるまち
 施策 03 障がい者（児）福祉の推進

基本事業 04 療育指導・相談の充実

主管課： 社会福祉課

関係課： 社会福祉課・こども療育教室、児童福祉課、保健センター、介護福祉課、指導室

1 基本事業の目的

対象（誰、何を対象としているか） 療育が必要なこどもとその保護者	意図（どのような状態にしたいのか） 相談や健診等により障がいを早期に発見し、適切な療育指導を受けられるようにする。 相談や療育指導を受けることで、保護者の不安を軽減する。
-------------------------------------	---

2 基本事業の成果状況（意図の達成度を図る成果指標とその動向）

療育利用契約者数 (人) 社会福祉課					
基準値 (H26)	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	目標値 (H33)
87.00	91.00	101.00	105.00	105.00	90.00
向上指針	上がると良い	(状況) 前年度と比較して10人増加し、目標値を達成しています。			
対前年度	向上	(原因) 療育指導の対象者は発達に心配のある就学前児童であり、小学校入学等により利用が終了することになります。この際、新規に利用を開始する児童数と利用が終了となる児童数が同じような人数のため年間利用者数がこれまで85人前後で推移していた状況です。平成29年度には、初めて100人を超える利用契約者数となった。			
目標達成度	達成				
次年度課題	課題としない				

療育指導回数 (年間) (回) 社会福祉課					
基準値 (H26)	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	目標値 (H33)
2,026.00	1,994.00	2,225.00	2,300.00	2,300.00	2,100.00
向上指針	上がると良い	(状況) 前年度と比較して231回増加しています。			
対前年度	向上	(原因) 発達に心配のある就学前の児童に対し親子で通園してもらい、療育指導員等により、個別指導（1対1での言語指導など）、集団指導（5名程度の小集団での集団参加訓練、身辺自立など）、水療育などの適応訓練などを行います。今後も指導回数については、療育指導の対象者の増加に伴い増加傾向で推移するものと考えられます。お子様の体調や保護者のお仕事の都合等により欠席されるケースを勘案し、指導回数については、上下することも考えられます。			
目標達成度	達成				
次年度課題	課題としない				

療育相談件数 (年間) (件) 社会福祉課					
基準値 (H26)	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	目標値 (H33)
574.00	662.00	912.00	930.00	930.00	600.00
向上指針	上がると良い	(状況) 前年度と比較して250件増加し、目標を達成しています。			
対前年度	向上	(原因) 相談内容としては、発達に心配がある子どもの幼稚園・保育所の就園・就学及び小学校の入学後の連携など、保護者からの就園・就学関係などの相談が増加傾向にあります。今後も、現状の利用推移から相談件数は900件程度で推移するものと考えられます。			
目標達成度	達成				
次年度課題	課題としない				

基準値 (H26)	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	目標値 (H33)
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
向上指針					
対前年度					
目標達成度					
次年度課題					